

令和 7 年度 10 月号

らいいぶらいいーにゅーす

しりつ ひがしみやしたしょうがっこう としよかん
さいたま市立東宮下小学校図書館

10月も半ばを過ぎ、ようやく秋らしくなってきました。月末からは「読書週間」が始まります。東宮下小学校でも秋の読書のイベントを行います。「読書の秋」です。すてきな本との出会いがあるように学校図書館も応援しています。

どくしょしゅうかん
読書週間

10月27日から11月9日までが読書週間です。この時期、図書館や書店でもいろいろな催しが行われます。今年の標語は「こころとあたまの深呼吸」です。この機会に、読書を通じて心と頭をリフレッシュし、日々の生活をより豊かなものにしてください。



終戦の2年後の1947（昭和22）年、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。第1回「読書週間」は11月17日から23日でした。いまの10月27日から11月9日（文化の日をはさんで2週間）になったのは、第2回からです。

それから約80年、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

（読書推進運動協議会 H P より）

ひがしみやしたしょうがっこう 東宮下小学校 秋の読書イベント



◆10月28日（火）～11月21日（金）

◆読書スタンプラリー（ゴールすると景品がもらえる！）や先生方のおすすめ本の展示、児童の皆さんのおすすめ本の紹介カードをガーランドにして掲示します。



《新しく入ってきた本》



「銭天堂」や「鬼滅の刃」など人気シリーズの新刊が入ってきました。この他新しく入った本の中から、おすすめの本を紹介します。

『ジャイアント・ジャム・サンド』 ロード／文・絵 童話館出版(E)【ランド】

ある暑い夏の日、チクチク村に4百万匹のハチの大群が飛んできて、みんなが刺されて大弱り。そこでハチの大好きなイチゴジャムでジャイアント・ジャム・サンドを作り、わなをしかけることにしました。



『クモの巣図鑑』 深海明／著 偕成社(485)【城】

雨上がりに水滴をきらめかせたクモの巣を見たことがありますか。美しいレース編みのようですが、クモの巣は種類によってつくる巣の形が決まっています。たくさんのカラー写真と詳しい解説で、クモの「巣」の巧妙なつくりと驚きの仕組みがよくわかる本です。

『恐竜のあたまの中をのぞいたら』 大島英太郎／作 福音館書店(487)【城】

C T スキャンや3 D プリンターなど最先端の科学技術と脳科学の手法を用いることで、恐竜の頭骨の化石から脳や内耳のかたちを解明し、当時の恐竜がどのような感覚が優れていたのか、それによって恐竜がどのようにくらしていたかを探っていきます。



『マイヤーさんと大きくなりすぎた犬』 ムーアとアデルソン／作 さ・え・ら書房(933)【城】



マイヤーさんはウエスト・ブルークという町の犬の捕獲人です。野良犬や家で飼えなくなった犬を黒い小さなトラックに乗せて連れて行くのです。町の人たちはその犬たちを再び見ることはありませんでした。連れていかれた犬たちがどうなるのかは誰も知りません。マイヤーさんはひみつだというのです。

『オーサム！国語塾』 清水晴木／作 岩崎書店(913)【城】

「国語の勉強をすると日常生活での思考力も上がります。」「オーサム国語塾」の今井先生にサポートされながら、それぞれの悩みに向き合い行動する子どもたちの姿が描かれています。国語の問題を解く方法と日常の悩み事を解決できるヒントもわかるお得なお話です。



『さあ、めがねをかけよう』 ハラシュトヴァ／作 偕成社(496)【城】

ジョーは遠くが見えない。キティは、遠くは見えるけれどめがねをかけないと周りがぼんやりしか見えない。でも、ふたりがめがねをかけると、遠くも近くもはっきり見える！目のしくみやめがねの歴史、正しいめがねの選び方などを紹介しながら、「きちんと見える喜び」やそれが子どもの世界を広げるのにとっても大切なことがよくわかる1冊です。

【城】→「本の城」にあります。【ランド】→「本のワンダーランド」にあります。